

が4名、川本幸民門が4名、緒方洪庵門が5名、初代坪井信道の関係者が14名でもっともおおい。師弟関係以外では大槻俊斎や伊東玄朴などにみられるように、蘭学を学ぶものの誼からの強い絆がみられる。

### 3. 箕作阮甫はなぜ名簿の筆頭におかれたのか

お玉ヶ池種痘所の発足に先立って設置された蕃書調所は、先行の施設としてお玉ヶ池種痘所におおきな影響をあたえている。嘉永6年(1853)の長崎での日ロ交渉にあたって中心的役割を果たした川路聖謨は、豊富なロシアの知識をもっていた箕作阮甫に同行をもとめ、これによってさらにお互いの親交は深まり、その学問と見識を尊敬しあうようになった。蕃書調所の開設にあたって川路聖謨はその推進に力をつくし、この両者の絆はさ

らに強固なものになった。そのような基盤をもった箕作阮甫をかいして川路聖謨の理解をもとめ、幕府に提出する種痘所建設申請書の名義人になることへの了解をとりつけることができた。その論功行賞として箕作阮甫が名簿の筆頭者としての地位をあたえられたといえることができる。

### 4. 二の丸製薬所について

関場不二彦によると、江戸城内二の丸において享保10年(1725)にはすでに丁子油が製造されていたという。その後連続としてこの事業は継続されていたようで、伊東玄朴が文久2年(1862)にこの施設に板囲いを施すことを申請し、それが許可されている。しかし二の丸製薬所についての文献はとぼしく、その実態は不明である。

(平成23年12月例会)

## 切手で迎える薬学の歴史

平林 敏彦

### はじめに

薬学の歴史については、今までに多くの研究者により多角的に研究され発表されてきたが、筆者は、約100種の薬学に関する切手により薬学の歴史を概説する。

### 切手の歴史

郵便切手を国家として初めて発行したのはイギリスで、1840年5月である。

以来、今日までの170年余に200を超す国・地域から約70万種の切手が発行されている。医学切手は約1.5万種といわれ、その中に薬学に関連した切手が含まれている。

### 薬学の歴史

1. 古代エジプト：世界最古の医学書とされているのが、B.C.1550年頃に編纂された『パピルス・エーベルス』である。1872年にドイツ人エー

ベルスによりナイル河流域で発見されたが、約880の医術の処方が記載されている。本書の内容解読は、1822年シャンポリオンによる象形文字の解読が寄与している。(右切手：1981年旧東ドイツ発行)



2. 古代ギリシャ・ローマ～中世アラビア時代：ヒポクラテス、ディオスコリデス、ガレノス、アヴィセンナら医学の先駆者達が薬草や鉱物を処方した書物を多数著した。

3. 中世～ルネッサンス：①中世までは、薬剤師の職能は明確ではなかった。しかし、1240年、神聖ローマ帝国皇帝でナポリ王国の国王でもあったフリードリッヒ2世が薬事制度に関する法律を制定し、この中で初めて医薬分業制度を公布し

た。これによりくすりは薬剤師が取り扱うものとなり、以後ヨーロッパで薬剤師の職能が確立した。

②錬金術：アラビア錬金術の祖であるゲーベルやラーゼスなどによりアラビアで発達し、16Cにスイスの医師パラケルススによりその頂点を極めた。この過程で、蒸留等の種々の化学的手法が考案され、水銀製剤なども発明され、その後の医薬品開発に寄与したが、16C後半以降錬金術は衰退した。

4. 近世：世界で最初の薬局は、9C初頭バクダッドに開設された。その後ヨーロッパでは1016年にローマ、1233年にドイツ、1336年にパリに開設された。最初の薬局開設に係る記念切手は世界で10数種類発行されているが、ノルウェーが発行した記念切手が有名である。(右切手：1995年ノルウェー・ベルゲン市スワン薬局開設400年)



5. 近代～現代：①19C初めに近代薬学が確立した。1804年、ドイツの薬剤師ゼルチュルナーがアヘンからモルヒネを抽出して初めてアルカロイドが発見されて以来、19C前半までに薬剤師達により多くの植物からアルカロイド類が発見された。これらにより医薬品の化学合成技術が飛躍的に進展した。

②化学構造式の表示方式もこの時代に確立し、特に1866年ドイツのケクレによりベンゼン核の構造式が決定された。なお、化学構造式を表示した世界最初の切手は、1948年に我が国が発行した「アルコール専売制度10周年記念」切手である。(右の切手)



③19C末に化学合成された最も有名な医薬品のひとつに鎮痛薬のアスピリンがある。一方、パストールやコッホによる病原微生物の発見により細菌学が確立され、ワクチンが誕生した。

④我が国では、江戸時代に華岡青洲の通仙散や鈴木梅太郎のオリザニン、高峰醸吉によるアドレナリンなどの新医薬品の開発がある。

⑤1910年、化学療法剤第1号のサルバルサンは日独の研究者エールリヒと秦佐八郎により創製され、またカナダの研究者バンディングがベストとの共同研究によりインシュリンを発見し、ノーベル賞を受賞している。さらにイギリスのフレミングによるペニシリンの発見は、感染症治療に画期的な効果をあらわした。

第二次世界大戦後から現在までに多種多様な新医薬品が開発され、病に苦しむ患者の治療に多大な貢献をしている。

6. 薬学の紋章：欧米を中心に薬学のシンボルとして「ヒギエイアの杯」がある。ギリシャ神話の医神アスクレピオスの三女ヒギエイアは健康の神であったが、診療に使う蛇の飼育を担当したことからくすりの神としても知られるようになった。そのことから、杯の中にある餌をなめる蛇が体を杯の柄に巻きつけた図案が薬学の紋章となった。(上の切手：1948年キューバ第1回全米薬学会議)



(平成23年12月例会)